

震災という苦難を乗り越え 新しい明日に向かって 大きな花を

はるかかのひまわり

「ほら、種をもらってきたよ」。夏休みの前に、お母さんがひまわりの種をもらってきました。小さい種だったので、お母さんが最初にバックに植えて、苗が少し大きくなってから、裏の畑やハウスの周りにお母さんと一緒に植え替えをしました。

このひまわりの種は、「はるかかのひまわり」といって、阪神大震災の時にはるかちゃんという女の子の家のあったところに咲いたひまわりの種だそうです。3月11日の地震で大きな被害があったところに、早く元の元気な町になるようにと、願いが込められて送られてきたんだと、お母さんが教えてくれました。

ぼくは、阪神大震災のことは知りません。でも、東日本大震災の時に起きた大地震や津波のことは、テレビで見たり、新聞の写真で見たりして知っています。大きな津波が来て、建物や車を飲み込んでいく様子は、この前もテレビでやっていました。それを一緒に見ていたお母さんは、「ちゃんと見て、きちんと覚えておくんだよ」と言っていました。

3月の地震のときは、学校にいて、校庭で遊んでいるときでした。急にぐらぐらしたので、ぼくはとてもびっくりました。保健のかおり先生が校舎

から出てきて、ぼくたちを集めてくれたので、ちょっと安心しました。

家に帰ると、テレビも電気もつきません。停電でした。ごはんはガスで炊きました。明るいうちに食べて茶わんを洗わないといけないので、お母さんが毎日、「早く食べてね」と言っていました。ぼくの家では電気が止まっただけで、水も出たし、お風呂もまきで炊いていたので、毎日入れました。でも、横山小学校に避難していた南三陸町の人たちは、何日もお風呂に入れませんでした。夜も、広い体育館では寒くて眠れなかったと思います。その人たちと比べたら、ぼくの所は良かったんだなあと思いました。

ぼくのお父さんの妹は、気仙沼に住んでいて、気仙沼向洋高校というところで保健の先生をしています。地震のとき学校にいて、津波が来るということで大事な書類や薬を校舎の3階に上げたそうです。でも、津波は3階も飲み込み、みんな屋上に逃げたと言っていました。

その日は、雪が降っていて寒い日だったけど、みんなで声を掛け合い、励まし合いながら、一晩屋上で過ごし、避難所に行けたのは次の日のお昼だったそうです。それも、まだ水が引いていないところを泥だらけになりながら、歩いて行つたとき聞いたとき、ぼくはとてもびっくりました。寒いのに水の中を歩くなんで、ぼくにはきつと

できないと思います。気仙沼向洋高校は、海のすぐそばにあるので車も流されてしまいました。お父さんの妹が無事だったので、みんな喜びました。

夏休みのある日、ひまわりの花が咲いているのに気が付きました。お母さんと植えてから、雨が降らない日はぼくが水をかけてあげました。

「早く大きくなって、大きなきれいなお日さまのような花が咲きますように」と、お願いしながら水をあげました。今では、ぼくの身長を追い越しました。毎日、お日さまに向かって、ここにこしながら咲いています。

ぼくは、このひまわりの種を気仙沼のお父さんの妹にもあげて、家の周りに植えてもらいます。気仙沼向洋高校のみんなにもあげて、気仙沼がひまわりでいっぱいになってほしいです。そして、前のような元気な町になってほしいと思います。

地震や津波で被害があったところが早く元のように戻るように、ぼくもこのひまわりをずっとずっと咲かせていきたいです。

●東日本大震災の記録

市では現在、東日本大震災の記録誌を編集しています。記録誌は、市内の被害状況や震災対応、課題検証やその後の取り組み、そして、震災に向き合った人たちの体験談などで構成。本特集では、寄せられた体験談の中から一部を調整し紹介しています。記録誌は3月中に本編とダイジェスト版を発行。市公共機関や学校、関係機関などに配布し、今後の防災行政および防災教育に活用していきます。



横山小4年
佐藤 輝 君
(当時：横山小1年)

あの震災を
特集 忘れない